

登山月報

中高年安全登山指導者講習会	1
JFA 2011日本選手権“マムートカップ”	2
第35回自然保護委員総会	3
UIAA MC会議/総会、UAAA総会報告	4
第36回 Mountain World	6
日本の山岳切手シリーズ①	7
第66回山口国体山岳競技会報告	7
新旧ネパール大使歓送迎会レセプション	8
JMA、寄贈図書、編集後記	8

平成23年度中高年安全登山指導者講習会「東部地区」報告

日時 平成23年9月16日(金)～9月18日(日)
会場 秋田県 鳥海山麓・国民宿舎「鳥海荘」
受講者 36名
講師 講師15名、助言者4名、看護師1名、
 補助講師15名

今年は東日本大震災の影響と9月の開催とあってどれだけ参加してくれるのか不安であった。締切りの7月末での応募者は20名不足で、2週間締め切りを延ばして再度募集したところ、最終的には遠くは愛知県、石川県からの受講者36名を得て開催にこぎつけることが出来た。

東北一の秀峰鳥海山ということもあって、受講者の思いは講義、研修はもとより登頂にもあるのではないかと考えて、10月の鳥海山は降雪期に当たるので、例年より1ヶ月前倒しでの開催とした。(この1週間後の日曜日には初冠雪を記録した。)

当日は台風15号の日本接近が予定されて2日目の実技講義は雨の中と覚悟をしていたが、歩みの遅い台風のおかげで出発から2時間は雨が降ることもなく、最初は視界も良好で山頂も見える中を出発できた。

初日 開講式では国立登山研修所所長・渡邊雄二、日本山岳協会会長・神崎忠男、秋田県山岳連盟会長・佐々木義宗の3氏からご挨拶を頂いた。その挨拶の中で、今日空前の登山ブームの最中にあり登山者は1,900万人にも上り、その内の75%が中高年登山者といわれる。それに伴い遭難者の数も年々増加傾向にあるとの話があり、この度の講習会の意義をあらためて述べられた。次に来賓紹介、講師、役員の紹介と続き、定刻通り3人の講師による講義に入った。

講義Ⅰ「中高年登山者の現状と課題」と講義Ⅱ「リーダーの責任と条件」では北村憲彦講師が担当され、まず冒頭に「山岳遭難の現状と問題点」と題して、平成22年度の遭難者数1933人中55歳以上の方が55%を占めている現状で、死者、行方不明294人そのうちの単独行遭難者22%、複数人登

山では8%となっており、際だった単独行登山の危険性が指摘された。その背景には「都合のよい無責任な(楽しそうな)情報の氾濫・発達した交通機関・不完全な計画」等など登山者が登山客になっているとの指摘は、「中高年登山者は増加傾向にあり、事故例からみて単独行登山は極力避けグループ登山が望ましい、中高年の事故が多いことなど全員に周知していきたい、始めからムリ(体力のない)な方への指導」などアンケートの中にも現れている。

次に「リーダーの責任と条件」では一にリーダー自身の体力強化(普段のトレーニング)。知識(読図・気象など)の高い技量と責任感。リーダーとフォローとの信頼関係を築くことの大切さ等を話された。

平塚昌人講師による講義Ⅲ「登山の基礎知識…地図」では、登山者は地図は持っているが多くが地図を読めない、地図を読んで地形を把握できない、自分の現在地を地図上で示せないなどの指摘があり、まず、1:25,000の地図上にコンパス使用の山座同定法(北緯40度あたりでは西に約8度20分の偏りがある)を習い、次に翌日の鳥海山の地図を使ってルートをなぞりながら等高線を読んで現れるピーク、コル、沢、尾根の変化などの見方から、山域全体をイメージする方法を学び、多くの受講者の



鳥海山竜ヶ原湿原

方から初めてこのような勉強をした、1時間では足りなかったなどの声がきかれ、読図能力を高める講義だった。

講義IV「GPSの使い方」では小野信也講師からGPSの基本的な活用方法を教わり、現在地が機械的に表示されその情報から的確に判断し、道迷いを防止し、冬季のホワイトアウトや濃霧時、雪渓ルートガイドラインに役立てる。しかしそれは補助的であってあくまでも地図とコンパスが登山の基本である。プロの山岳ガイドである小野さんのザックの中身を出して広げて見せてもらい、パッキング方法は大変参考になった。ガイドの配慮の奥深さを知ったなどの声があった。

2日目 台風の影響で雨の中の山行を覚悟していたが、出発時には雨もなく6班編成で宿舎の国民宿舎「鳥海荘」からバス2台に分乗して登山口の祓川に移動し、入念なストレッチ体操、登山準備のあと出発。急登石段のタッチラ坂を登り、七ツ釜の沢を横目に康新道分岐で休憩しながら高度を稼ぐ。今日の予報は朝から雨であったが九合目の氷の薬師より雨が降り出し雨具を着用する。

山頂直下の足元の悪い急登を登りきって七高山山

頂へ。山頂では風を凌ぎながら昼食をとり、休息のあと往路を下山する。雨と風、低温の為に予定の実技が行えなかったが、途中、康新道分岐で疲労が激しく歩行困難な登山者の安全確保を想定して「ショートロープ」のデモンストレーションを実施する。祓川登山口には予定どおりに下山し、現地できなかつた負傷者のザック搬送などを宿舎前で行い実技講習を終える。

3日目 研究討議を3つの分科会に分かれて多岐にわたり意見交換を行い、受講者の多くの方々から貴重な情報や意見が多くあって、全体会の報告時間が予定より延びてしまうほどであった。特に第3分科会の「天気図と地図」では秋田气象台から助言者として来て頂いた予報官の長畑和博氏の普段聞けない話は大いに役に立ったと思います。

閉講式では、渡邊雄二・国立登山研究所所長から受講者全員に修了書授与に続いて、仙石富英・日山協常務理事から講評を頂き、講習会を無事終了した。

多くの関係者のご協力とご尽力に感謝申し上げ報告と致します。

(記 秋田県山岳連盟理事長 佐藤 健)

—長野県山岳協会創立50周年記念事業— JFA 2011 日本選手権 “マムートカップ”

10月22、23日、長野県北志賀竜王のホテルタガワ総合体育館において、JFA日本選手権が開催された。この大会は長野県山岳協会創立50周年としておこなわれ、地元アートウォール社によりワールドカップ規模のクライミングウォールが建設された。

ルートは、セッターに木村伸介、平松幸祐に加えフランスからトンデ・カティヨが加わったこともあり、ハリボテや大きなホールドを多用した個性あふれるものとなった。

女子は“本業”はボルダーとはいえ、やはり世界の野口啓代が強く、ファイナルでは最終壁面に野口のために用意されたというボルダーパートを見事にこなし完登。場内は大いに沸いた。また、ユース旋風が吹き荒れる中、榊原佑子の健闘が光った。

男子は予選の2ルート両完登が松島暁人、小澤信太、芝田将基の3名。準決勝では、新田龍海が1位におどり出て、松島、小澤が2位タイにつけた。

そしてファイナル。ジャグホールドが取り付けられたハリボテへのランジという見せ場を持つルートだったが、ここから動き出せない選手が多く、渡辺数馬にいたってはここでタイムアウト。ここを切り

抜けかけたのが小澤、90%切り抜けたところでバランスを崩したのが新田。完全に切り抜け最終面を登ったのは松島と芝田の2名のみ。さらに同高度で両名とも落ちるが、カウントバックで松島の優勝が決定した。この強豪ぞろいのメンバーで2位となった芝田は大金星といえよう。

併設して第3回視覚障害者日本選手権が行われた。予選を完登した5名によりファイナルが行われたが、第2回大会の覇者、福本順哉が“世界チャンピオン”小林幸一郎にホールドひとつの差をつけて優勝した。

すばらしい会場、ウォールを提供していただき、優秀なスタッフとして働いていただいた長野県山岳協会の皆様に紙面を借りて感謝いたします。

(記 北山 真)

男子	女子	視覚障害者
1 松島 暁人	1 野口 啓代	1 福本 順哉
2 芝田 将基	2 榊原 佑子	2 小林幸一郎
3 新田 龍海	3 尾上 彩	3 井戸本将義
4 小澤 信太	4 安田あとり	
5 渡辺 数馬	5 米倉 亜貴	
6 尾形 和俊	6 大田 理滂	

第35回自然保護委員総会(鳥取県大会)

10月15日～16日に第35回自然保護委員総会が鳥取県山岳協会主管のもと、鳥取県、西伯郡大山町、山陰中央新報社、中海テレビの後援を得て、西伯郡大山町「ホテル大山しろがね」で、全国(23都道府県)から107名の委員と自然保護担当者を集め開催された。

総会に先立ち「自然保護委員長会議」が開かれ、議事の進行と次期開催県について事前協議された。

総会は、鳥取山協・大西一俊副会長の開会宣言で開始された。まず、主催者側の神崎忠明会長より、カトマンズ宣言を引用し、アジアには自然保護活動をしなければならない地域が沢山あり、登山が低迷・多様化しているなか、アジア全体へも広い視線を向けてもらいたい、と挨拶。

次いで石倉昭一・自然保護委員長より、日山協の公益法人化の動きに合わせ、自然保護委員会も転換期を迎え、公益性を取り込んだ活動の展開をこれからは迫られることになる、と今日的課題を提起した挨拶をされた。

さらに鳥取山協の河合登会長より、大山は高さ約1700mであるが、岳人の意欲をかき立て、愛されも、恐れられもした山である。古くは出雲風土記や国引き伝説にも登場し、修験道の地としても栄えた。昭和40年代のブームから山岳自然が荒廃した反省から、破壊の現状を踏まえた自然保護憲章が創られ、清掃や植生回復が定着化してきた。紅葉には少し早いが大山の自然を楽しんでもらいたい、と挨拶。小西正記・大山副町長からは豊富で良質な水がお国自慢の大山へようこそと歓迎の挨拶があった。

議事に入り、まず愛媛総会以降の常任委員会の活動報告、山岳団体自然環境連絡会(6団体)で連携したトイレ問題の意見書や「山はみんなの宝」、「山の鳥獣目撃レポート」の説明に続き、「各都道府県山岳連盟(協会)活動状況報告(情報交換)」に進み、あらかじめ提出された資料に基づいて提案・報告が

なされた。

この提案・報告では、裸地化、荒廃化登山道、トイレ、入山料徴収など、山のオーバーユースへの対策活動のほか、山のマナーや山岳環境保全への啓発活動、森林づくり活動、稀少動植物の保護保全活動、水場の水質調査や樹木の立枯れ調査、携帯トイレの普及活動等々、各岳連が地域の特性に応じて積極的に繰り広げている山を守る諸活動が報告された。

しかし、こうした旺盛な環境保全意識とは裏腹に、自然保護指導員の登録数や士気の低下など悪化傾向に自然保護活動の先行きへの憂を訴える岳連もあった。また、シカの食害や特定外来植物の侵入など生態系に係る被害や、自然環境の悪化を認識しつつも、具体的な手出しができない歯がゆさを訴える報告もあった。一方、自然保護に関する活動は一岳連には荷が重いなか、地域や行政と連携して成果を挙げた事業、各種補助金を受けて事業の継続を図っている活動も報告され、活動の進め方の良き事例を示唆した。

討議のあと、大会スローガン「活動の輪を広げ、緻密な積み重ねで前進しよう」を採択した。平成24年度の開催地に北海道が満場の拍手で了承され、議事を締めくくった。議事のあと、大山の植生回復活動に永年取り組んできた乾刻弘氏(大山の頂上を保護する会副会長)の「大山山頂の保護30年のあゆみ」と題する基調講演を聴講。永年の植生回復の経緯について実践的な講演内容で、翌日の大山頂上視察登山の植生観察の下知識を得た。

第二日は曇り空の中、大山頂上視察登山と大山寺周辺の清掃の2コースに分かれエクスカッションが行われ、大山地区の自然保護活動の状況について実地に見聞し、下山とともに、総会は解散となった。

最後に、鳥取県山岳協会をはじめ、主管・ご後援頂いた関係各位に、深くお礼申し上げます。

(記 自然保護常任委員会 松隈 豊)



総会会場にて
集合写真

UIAA MC会議／総会、UAAA総会報告

2011年10月6日～9日に標記会議が開催された。以下はその報告である。

参加者は下記Ⅰ～Ⅳにおいて、田中前会長（MC委員）、神崎会長（代表）

Ⅰ UIAA MC会議（委員会委員長も含む）報告 日時 10月6日 8時30分～17時

MCとはManagement Commissionの略であり、その名の通りUIAAの中核をなす委員会である。委員会というよりは理事会としての性格を帯びている。構成員としては会長を含むExecutiveのボードメンバー、これらのボードメンバーに推挙された人、3大加盟国から1人ずつ、北米、中・南米、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、から各1人ずつ、そして総会によって選出された3～5人のメンバーで構成されることになっている。任期は全員2012年まで。

[出席者] ボードスタッフ・会長 Mike Mortimer（カナダ）、副会長 Jordi Colomer（スペイン）、財政担当 Jan Bonding（デンマーク）、事務局長 Nico de Jong（オランダ）、メンバー・Peter Farkas（ハンガリー）、Silvio Calvi（イタリア）、オフィスマネージャー Gurdeepak Ahuja（略してGDと呼ばれる）（インド）、MCのみのメンバー・Doug Scott（イギリス）、David Jones（南アフリカ）、John Nankervis（ニュージーランド）、Mark Richey（アメリカ）、Fumio Tanaka（日本）

審議内容は以下の通り。

1. 開会宣言
2. 予算審議：日本からは、可能ならば第2四半期、つまり半期毎に決算書がほしいと申し入れた。また、経理面の改善の提案も行った。検討すること。
3. 各委員会報告：報告に先立ち、オフィスマネージャーのGDが各委員会のマネジメントの在り方について、次回のMC会議までに、相互連絡機能を中心に提案すること。委員会毎の報告は紙面の都合で省略する。
4. 戦略プラン2012-2014：これは今年の春にUIAAの専門委員等関係者にアンケートを配布、今後のUIAAの在り方について検討する資料にしたものである。

Ⅱ オープニングセレモニー

日時 10月7日 9時～10時

ネパールの大統領 Ram Baran Yadav 閣下をお迎えして盛大に行われた。

Ⅲ UIAA 総会報告

日時 10月8日 8時30分～17時

出席はMC会議メンバーも含めた各国の代表、投票権のある出席国は32カ国。それとは別に日本は財政処理に関しては7人分の投票権を持つ。因みにイギリスは8人分である。

事務局長のNicoがMC会議を振り返ってとのことで特に財政に関しては日本の意見が大変参考に



UAAA 総会参加者

なったとわざわざ紹介してくれた。午後の開始において10分間の時間を頂き、神崎会長がJMA新会長就任の挨拶と震災・津波被害のお見舞いに対する謝礼を、映像を示しながら行った。審議内容は以下の通りである。

1. 開会宣言
2. 昨年の議事録承認：賛成多数（拍手）で承認された。
3. 決算及び予算承認の審議：2008年～2010年までの決算について、賛成128、反対14、棄権12で可決した。
4. 各委員会報告：割愛する。
5. MC会議メンバーの補充：メンバー構成に空きがあるので2名の新規候補があった。任期は2012年迄、つまり後1年間しかない。NMAのZimba氏は立候補を取り下げた。イタリアのPier Giorgio Oliveti氏は1年でもメンバーになる、ということで了承された。
6. 戦略プラン2012-2014：MC会議の結果について報告があった。
7. 規約（定款）変更
 - (1) 名誉会員の推薦：今までは総会で推薦されればそれでよかったが、今回から投票者数の90%以上にしたいとのこと。賛成12、反対11、棄権5で可決した。
 - (2) MCメンバーは大きい加盟国3か国から各1人ずつ選出されるが、次のMC会議からは5か国にしたいとのこと。賛成26、反対6で可決した。
 - (3) 会長の任期：今までは他のボードメンバーと同じ、1期4年で3期だったが、1期にしたいとの提案であった。結果として会長は2期、他のメンバーはそのままにしたいという別の案が提出され、賛成25、反対3、棄権3で可決した。
8. 新規加盟国の承認
チェコ共和国、ポルトガル（今までは別の組織）、コソボ、インド（India Nehru Institute of Mountaineering）4か国とも承認。
9. 加盟費用未払い国：22団体に上っている、年末が支払いのリミットとなる。除名国はなかった。
10. 名誉会員推薦：2名の候補がいる。NMAのAng Tshering Sherpaと前UIAA会長のIan Daviss。前項7で新規に規定されたルールにより投票が行われた。結果はAng Tshering Sherpa 賛成27、反対3、棄権2、従って90%に届かず。Ian Davis 賛成17、反対10、棄権2、同じく届かず、両名とも落選となる。
11. 総会の次回（2012年）開催、次次回（2013年）開催：次回は10月にアムステルダムと既に決定している。2013年度はスイスとスロベニアが立候補、しかし後者は席上に来ず、スイスに決定、



UIAAのMC会議

2014年度はチリがアピールした。（未決定）
次回MC会議の1回は5月にハンガリーが決まっている。

IV UAAA 総会報告

日時 10月9日 9時30分～17時

合計で12カ国、16組織、29人の参加とのこと。

1. パキスタンから洪水見舞いの御礼があった
2. 各国の活動状況
3. 委員会報告：Expedition、Environment、Youthについての報告があった。
4. 会計報告：台湾CTMAのHwang氏が担当、収入はあるが、支出は理事会、総会に関してのみで極めて健全とのこと。
5. 次年度開催地：総会について次年度は韓国で決定、次次年度もパキスタンですんなり決定した。次年度理事会はイランと台湾で争ったが、キルギスの提案と台湾も総会が韓国なら理事会は少し離れたイランがよいと譲歩した。代わりに次次年度の理事会は台湾となった。
6. その他
 - (1) HAT-Asiaを作りたいとの神崎会長の提案あり。各国からの反応は具体的な案、UAAAとの関連、経理的根拠を加盟国に神崎会長が配信し、その後に決定したいとのこと。
 - (2) UAAA創立20周年を迎える2014年には日本の広島で総会を開催したいとの案。ほぼ全員が了承する。パキスタンが積極的に支持した。
7. 人事：2012年と2013年の人事についての提案があり、会長は今まで通り、韓国のLee氏に決定、副会長国、理事国についてはLee氏に一任になった。
8. 挨拶：Ang Tsering Sherpaが特別に挨拶した。名誉会員についてしきりに述べていたが、最後は有難うとの言葉で締めくくった。Lee会長の挨拶：UAAAはBig Family。互いに理解しあいましょう、とのこと。

（記 小野寺 斉）

第36回 Mountain World

アメリカ山岳会 新旧会長の活躍

池田常道

国を代表する山岳団体の会長職といえ、功成名遂げた重鎮の居場所というのが通り相場だろう。過去に目覚ましい登山歴を持ち、いまなお山登りを続けている人はあっても、現役としてアルピニズムに献身している人物はあまり見ない。ましてヒマラヤの高峰で、未踏の頂をアルパイン・スタイルで登ろうと企てるなんて……

アメリカ山岳会（AAC）の現会長と2代前の会長が手を携えてサセール・カンリⅡ峰の初登頂を成し遂げたニュースは、新鮮な驚きを以て迎えられた。現会長スティーブ・スウェンソンは50代なかば、元会長マーク・リチーは50を迎えたばかりと、他国の役員に比べれば若いと言えるにしても、この山に示した執念はみごとと言えよう。

サセール・カンリⅡ峰（7518m）は、1985年に日印合同隊が初登頂したのとして長らく登山界に受け入れられ、あえて挑もうとする登山隊は久しく現れなかった。マーク・リチーは、2001年に英国のクリス・ボニントンと組んで東部カラコルムを訪れ、ヤマダカ（6218m）に初登頂してからこの山に興味を抱いた。スウェンソンと共に当時の記録を精査してみると、85年の隊は長い頂上稜線の一端に達しただけで、最高点には立っていないことが分かった。頂上に立ったインド側隊員（日本側登頂者はいなかった）は、彼らが達した西の頂と東のそれとは「ほとんど同高度だ」として初登頂を主張していたが。

スウェンソンとリチーは2009年の夏、マーク・ウィルフォード（米）とジム・ロウザー（英）を誘って南壁から東峰に挑んだが、頂上攻撃は9月下旬までずれ込み、悪天候のため途中で敗退を余儀なくされた。昨年は、印パ停戦ライン付近の緊張が高まって許可が得られなかったが、ことしは首尾よく許可が出て再挑戦することができた。

メンバーはスウェンソンとリチーにフレディ・ウィルキンソンという新戦力が加わった。もちろん前回同様、規定にしたがってインドとの合同隊を組み、ツェワン・モトツプ以下3人とシェルパ4人が加わったが、彼らの活動はABCまでで、登攀は米

国勢3人だけがアルパイン・スタイルで行う。このほか、ウィルキンソン夫人ジャネット・バーグマンら3人の女性もBCまで行動を共にし、別個の目標に挑むことにしていた。

前回の失敗に懲りて7月入山としたが、南面したルートゆえ真夏の暑さは耐え難く、攻撃は涼しくなった8月後半から開始することになった。20日BCからABC（5800m）に上がり、21日6000mでビバーク。翌日前回の到達点を越え6700mへ。4日目7000mでビバークし、翌日頂上を往復した。東峰頂上からの所見や周辺の山からの観察を踏まえてリチーはこう書いている。「西峰からの頂上稜線はほとんど下ることなく東峰に続いている。両社の高度差は150mはあるので、西峰は頂上というより西の肩とみなして差し支えない」。

マーク・リチーは80年代にアンデスで登り、96年にはシヴリン東稜の第2登にアルパイン・スタイルで成功、97、98年にラトックⅠ峰北稜を試みている。一方スウェンソンは80年と83年、92年と3回ガッシュャブルムⅣ峰に挑み、90年にはK2北稜第3登を果たした。2004年にはナンガ・パルバットのマゼノ・リッジを南西稜との合流点まで縦走した。2人は06年、07年と続けてラトックⅠ峰に挑んだ。とくに06年は、可能性の見えない北稜ではなく、Ⅱ峰南稜からアルパイン・スタイルでⅠ峰まで縦走しようという野心的な計画だったが、Ⅱ峰の第4登で終わっている。

還暦を過ぎてもヒマラヤに通い続ける人は少なくないが、これほどの密度でアルパイン・クライミングを続けている人物はあまりいない。多くの方はトレッキングか、せいぜい8000m峰のノーマルルートといったところだろう。また逆に、こういう人物がAACという組織の頂点に起用されるところにアメリカ登山界の活力を感じ、彼我の差を思わざるを得ないのも正直なところだ。

サセール・カンリⅡ峰の2日目。グレート・クーロワールを登るM・リチーとS・スウェンソン



サセール・カンリⅡ峰頂上に立つM・リチー、S・スウェンソン、F・ウィルキンソン（左から）



3月11日の大震災以来、福島は原発事故と風評被害に見舞われ未曾有の危機に立たされていますが7ヶ月が過ぎ徐々に復興の機運が芽生え始めています。避難することも選択肢の一つですが残って故郷福島を守り抜くことも私達に課せられた大きな使命です。必ずや福島は復興します。これまでいただいた日山協と各岳連の皆様のご厚情に心から感謝申し上げます。

今回、山の切手になり唄にも歌われた「磐梯山」は、今紅葉の真盛りです。

5月の山開きに始まり四季を通して岳人から愛されてきた磐梯山は裏磐梯とともに、福島を代表する観光拠点として、また、私達の格好の登山活動や冬山トレッキング・山スキーの拠点になっています。

明治21年(1888年)の大噴火のため一等三角点がとなりの猫魔岳に設置され、磐梯山には明治

37年5月25日に三等三角点を設置されましたが風雨による山頂侵食により亡失していました。これを憂えた地元猪苗代山岳会の復活要望の熱意に動かされ国土地理院が平成22年10月26日に三等三角点「磐梯」を再設置したのです。

しかし平成22年の標高改定により磐梯山の標高が1819mから1816m(1816.29m)と低くなってしまいました。福島国体に幸された天皇・皇后両陛下が磐梯山の標高をお尋ねになった時、ぬる湯の二階堂匡一朗氏が磐梯山は満で18、数えて19の乙女の山ですと答えられた逸話が残っているほど大変覚えやすい標高でした。地殻変動や侵食の自然の力には勝てません。大正元年(1912)に決められた標高が改定された県内の山は吾妻山一切経山1949.35m(58cm高)、飯豊山2105.18m(4cm高)、燧ヶ岳2346.20m(19cm高)です。原発事故以来、県内の山を訪れる登山客は激減しました。「全ての峰に憩いあり」福島の山々は皆さんのご来福をお待ちしています。(福島県山岳連盟会長 尾形 一幸)

第66回山口国体山岳競技会報告

(前号の続き)

★リード競技(L競技)について

競技時間は予選が6分、決勝は8分で実施され、コンパネで作られた上部と下部が可動する壁2面で行われた。2面は同一形状、同一ルート(同一グレード)で実施された。

リード競技のグレードについては以下の通り。少女種別で昨年よりも難易度が上がり、成年男女と少年男子では若干下がった(下表参照)。

予選完登者は、成年男子12名、成年女子3名、少年男子8名、少年女子3名、決勝完登者は少年男子千葉県の島谷選手と長野県の中嶋選手の2名と少年女子山口県の小田選手1名。チーム順位は、成年男子1位は千葉県が6度目、成年女子1位は兵庫県が2度目、少年男子1位は千葉県が2年連続、少年女子1位は山口県が3年連続の快挙を成し遂げた。

★ボルダリング競技(B競技)について

競技会場である体育館は、昨年の千葉国体会場と同じ位の広さであったが、連日大勢の観客が来場して頂き、常に満席状態であった。今回は、昨今の世界大会の状況を踏まえ、複雑な形状の壁を用意して三次元的なルート構成とした。このような特殊な形状の壁で練習する機会は少ないが、今回はどの選手もよく対応していた。全国各地に良質の練習施設が増え、指導者層が着実に蓄積しつつあることを実感した。また、トップ層は別格の登りを披露したが、それを追いかけるチームが数・質ともに大きく増加した。国体ならではの5分間で二つのボルダーをオプザベーションし、6分間で各選手が2つのボルダーを相談しながら登るという独特の形態について、各チームが習熟しつつあると感じた。ともすれば過度な緊張に陥りがちな選手に対して、監督のメンタルマネジメントが有効であった例も散見された。また、昨年度までのような危険な落ち方をする選手は激減した。落下技術も確実に浸透しつつあり、

山口国体(平23)

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
L予選	5.13a	5.12b	5.12c	5.12c
L決勝	5.13c	5.12c	5.13a/b	5.13a/b

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
B予選	2・1・初・2/1・初	4・2・3・2/1	3・1・2・初	5・3・2・4・2
B決勝	① 1・初+ ② 1・初+	① 3/2・1 ② 3/2・1/2	① 2/1・初 ② 2/1・初+	① 3・2/1 ② 3・2/1

大きな怪我は皆無だった。

ボルダリング競技のグレードについては以下の通り。(別表の中の数字は級、初は初段。左から順に第1～第4課題を表しています)。全体的にグレードは昨年よりも若干上がった。

予選課題の一撃全完登者は、成年男女はなく、少年男子は3名、少年女子は6名だった。決勝課題の一撃全完登者は全種別ともなく、特に成年男子決勝1Rの第2課題の完登は北海道の杉本選手と千葉県

の渡辺選手2名、成年女子の決勝2Rの第4課題は北海道の坂本選手のみが完登という厳しい課題設定であった。

チーム順位は、成年男女とも1位は北海道(女子は2年連続)、少年男子は千葉県が2年連続1位、少年女子は山口県が4年連続1位の快挙を成し遂げた。

(記 競技委員長 高山 雅夫)

新旧ネパール大使歓送迎会レセプション

10月18日、東京駅に隣接する東京ジョンブルにて、日本ネパール協会主催の駐日ネパール大使として三年余の任期を終え帰国されるDr.G.Y タマン氏の送別会と、在ネパール新旧日本大使の歓送迎会が開催された。

参加者はパキスタンイスラム共和国大使ヌール・ムハマド・ジャドバニ氏をはじめ外務省関係の方々をはじめとして海外の方の姿も多く約80名。登山関係者は神崎会長、三浦豪太氏、宮原巍氏など10名程度と少な目だった。

日ネ協会会長の小嶋光昭氏の主催者挨拶と三人の大使の紹介に続き、大使の方々がスピーチをされた。はじめはDr.G.Y タマン氏、「日本の国も人も大好き。別れるのが辛いので「さよなら」と言わないでまた

ネパールでお会いしましょう」と挨拶。花束が贈呈された。

次いで、前ネパール大使の水野達夫氏がネパールは良い国でした。一日も早くネパールの憲法制定を期待しています、とネパール語でも話された。そして新ネパール大使高橋邦夫氏は、これまでスリランカ・モルディブ大使であり、ネパールは初めてだが日ネ間の良好な友好関係構築に全力を尽くしたい、と挨拶された。

その後、今西名誉総領事の乾杯で食事と懇談に移った。今西氏はマナスル登頂の今西寿雄氏のご子息とのこと。懇談の折、「父から、山だけはやらないようにと言われてました。」と伺いました。日本スリランカ協会のダンサーによるスリランカの民族舞踊も披露され、和やかな雰囲気でのレセプションで2時間が短く感じられた。

(記 本木 総子)



平成23年度10月(23年10月)
常務理事会議事録

日時	平成23年10月13日 17:30～20:25	4、国立登山研修所)
場所	岸記念体育会館103号室	イ 日中韓国際交流事業について(1/14～19、国立登山研修所)
出席者	神崎会長 内藤副会長、國松副会長、八木原副会長、松元副会長、尾形専務理事、西内、佐藤、石倉、高山、水島、北山、相良、谷口、堀井各常務理事	ウ 国内旅行保険の包括契約及び短期国内旅行傷害保険について エ 無雪期レスキュー講習会について(9/23～25、国立登山研修所)
委任	仙石、寺内、永井常務理事(18名中15名出席)	オ その他 ・平成23年度遭難対策常任委員会について ・福島遭難対策協議会への講師派遣について ・9月遭難対策常任委員会は9月のレスキュー講習会に合わせて実施
1.専門委員会動静		(2)指導委員会
9月常務理事会以降(8月27日～10月12日)		9月5日(月) 出席者10名
[報告]		
(1)遭難対策委員会		
8月31日(水) 出席者12名		
ア 強度試験について(9/3～		

ア	8月常任委員会議事録の確認
イ	日山協9月常務理事会の報告
ウ	S C指導員養成講習会(千葉)の報告 ・8/18～21、印西市、参加者:19名
エ	登攀技術研修会(宮城)について
オ	講師養成研修会について ・11/12～13、神奈川県山岳スポーツセンター
カ	ハイキングリーダーについて
キ	S C指導員養成講習会(北海道)について
(3)普及委員会	
	9月5日(月) 出席者6名
ア	平成23年度「ジュニア登山教室in立山」の報告 ・8/10～13、立山周辺、参加者:19名 ・報告書の作成、礼状発送について
イ	中高年安全登山指導者講習会(東部・西部地区)について

- ウ 平成24年度「ジュニア登山教室in立山」開催について
 - ・2012年8/8(木)～11(土)
- エ 個人会員アンケートについて
- オ 第2回全国高等学校選抜クライミング選手権大会について
 - ・実施要項を『登山月報』10月号に掲載
- (4)広報委員会
 - 9月5日(月) 出席者6名
- ア 『登山月報』9月号の編集について
 - ・インターハイ報告(谷口)
 - ・ジュニア登山教室in立山(仙石)
 - ・JOCジュニアオリンピックカップ(競技)
 - ・神崎さんを励ます会(尾上)
 - ・顧問懇談会報告
 - ・Mountain World
 - ・JMA
- イ 『登山月報』の定期発行の取組みについて
- ウ 『登山月報』及びHPの広告協賛の推進について
- エ 『登山年報』の刊行について
- (5)国際委員会
 - 9月13日(火) 出席者6名
- ア 海外登山女性懇談会について
 - ・12/6(火)、ICIアースプラザ
 - ・呉銀善(韓国女性)講師の招請について
- イ 日パ国交60周年記念事業について
 - ・K2大星空紀行について
 - ・日パ学生ワーク・キャンプほかについて
- ウ 日中韓国際交流事業について
 - ・1/14～19 国立登山研修所
- エ BMCインターナショナル・ウインター・クライミング・ミート2012の派遣について
 - ・1/22～29、スコットランド、グレンモア・ロッジ
- オ 海外登山奨励金の募集について
- カ 平成24年国際委員総会兼海外登山遭難対策研究会について
 - ・2012年6月23日～24日、主管：神奈川県岳連
- (6)選手強化委員会
 - 9月13日(火) 出席者4名
- ア 世界ユース選手権大会(イムスト)の報告
 - ・ヨーロッパ開催の大会でメダル3(銀2、銅1)は評価できる。
 - ・全員の予選通過は、初めて。選手強化の成果が現れている。
- イ ユース日本代表海外合宿について
 - 1/2～10、オーストリア・ウイーン
- ・14回JOCジュニアオリンピックカップ、アジアユース、世界ユースの内容で選考候補選手：(女子)水口僚、尾上彩、竹内彩佳、義村萌、大場美和、田島あいか(男子)山内誠、島谷尚季、是永敬一郎、飯田讓、蔭谷康平、津守貴斗、野村真一郎
- (7)競技委員会
 - 9月15日(木) 出席者13名
- ア 9月常務理事会報告(8/27開催)
- イ 臨時理事会報告(8/28開催)
- ウ JOCジュニアオリンピックカップの報告と来年の日程について
 - 2012年は8/11(土)～13(月)で決定
 - 高校総体(新潟)が8/7～11のため、初日に高校生の予選は行わない
- エ 第2回全国高等学校選抜クライミング選手権大会について
- オ トレイルラン小委員会の報告
- カ 2012WC印西大会の進捗状況について
 - ・日程は10/27～28で決定
- キ 国体選手参加資格の確認作業報告
- ク 山口国体抽選会報告
- ケ 国体後催催の準備状況について
- コ 国体第2期実施競技選定に係る競技団体基礎調査について
- サ 平成24年度からの審判員、ルートセッター、競技運営員の登録・更新業務について
- (8)自然保護委員会
 - 9月20日(火) 出席者14名
- ア 7月常任委員会議事録確認
- イ 山岳団体自然環境連絡会報告(9/9、労山)
- ウ 第36回自然保護委員総会(北海道)開催依頼について
- エ 9月常務理事会、臨時理事会報告
- オ 第35回自然保護委員総会(鳥取)の準備について
- カ 第2回自然保護指導員研修会(11/26、オリセン)について
- キ 福島原発事故に伴う放射能拡散問題について
- (9)指導委員会
 - 10月3日(月) 出席者9名
- ア 9月常任委員会議事録確認
- イ 指導者登録説明会について(10/19)
- ウ スポーツ指導者全国研修会について(12/18)
- エ SC指導員養成講習会(9/23～24、11/19～20、北海道)について
- オ 登攀技術研修会(10/15～16、宮城)について
- カ 講師養成研修会(11/12～13)について
- キ 日中韓国際交流事業について
- ク 氷雪技術研修会及び常任委員研修会について
 - 大山～2/11～12
 - 富士山～3/18～20
- ケ 上級指導員養成講習会(鳥取)の認定について
 - 安井博志、木元康晴、山田佳範、河合登
- (10)国際委員会
 - 10月11日(火) 出席者10名
- ア 海外登山女性懇談会について
 - ・テーマ「韓国の女性登山の現状」12/6(火)、ICIアースプラザ
- イ 日パ国交60周年記念行事について
- ウ 日中韓国際交流事業について
- エ BMCインターナショナル・ウインター・クライミング・ミート2012の派遣について
 - ・長門敬明、増本亮の2名をエントリー
- オ 平成23年度海外登山奨励金の公募について
- カ UIAA、UAAA総会報告
 - ・UIAAの組織について
 - ・UAAA創立20周年記念総会の広島開催について(2014年)
 - ・HAT-Asiaについて
 - ・UAAAの活動について

JMA

守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

■平成21年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成22年6月8日)

発生件数 **1,676** 件

遭難者数 **2,085** 人

死者・行方不明者 **317** 人

詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

2.その他の重要事項

(8月27日～10月12日)

[報告]

(1)世界ユース選手権

8月25日(木)～30日(火) 於：
オーストリア・イムスト 小日
向常任委員ほか選手16名

(2)平成23年度臨時理事会

8月28日(日) 於：岸記念体育
会館 神崎会長ほか理事26
名、監事2名。

(3)SPCC (ネパール) アン・ド ルジェ・シェルパ会長来局

9月1日(木)

(4)内閣府公益認定等委員会窓口相 談 9月2日(金) 於：虎ノ門 37森ビル 尾形専務理事、小 野寺事務局員

(5)H A T - J 創立20周年記念式 典・祝賀会

9月3日(土) 於：プラザエフ
神崎会長、内藤副会長

(6)遭対強度試験 (検証)

9月3日(土)～4日(日) 於：国立
登山研修所 西内常務理事

(7)平成23年度和歌山県ゴール デンキッズ発掘プロジェクト 「ゴールデンキッズトライア ル」 9月4日(日) 於：和歌山 県・ホテルグランヴィア 西谷 常任委員

(8)NMA ジンバ・ザンブー・シェ ルパ会長他アジアの山仲間を囲 む会 9月5日(月) 於：プラザ エフ 田中顧問、神崎会長、尾 形専務理事、小野寺事務局員

(9)第66回山口国体抽選会

9月10日(土) 於：岸記念体育
会館 高山常務理事

(10) (一財)自然公園財団理事会

9月14日(水) 於：法曹会館
本木顧問

(11)内閣府公益認定等委員会移行申

請に関する基礎的研修会 9月
15日(木) 於：虎ノ門37森ビル
小野寺事務局員

(12)平成23年度中高年安全登山指 導者講習会 (東部地区)

9月16日(金)～18日(日) 於：秋
田県・鳥海山山麓 神崎会長、
仙石常務理事

(13)U I A A 登山委員会

9月17日(土)～18日(日) 於：イ
タリア・アルコ 青山常任委員

(14)平成23年度レスキュー講習会 (西部地区) 9月23日(金)～25 日(日) 於：国立登山研修所

西内常務理事ほか

(15)S C 指導者養成講習会

9月23日(金)～25日(日) 於：北
海道 有枝常任委員

(16)神奈川大学クライミングウォー ルお披露目会 9月24日(土)

於：神奈川大学横浜キャンパス
神崎会長

(17)新公益法人の新会計基準打合せ

9月27日(火) 於：岸記念体育
会館 尾形専務理事、相良常務
理事、小野寺事務局員

(18)日中韓国際交流事業打合せ

9月28日(水) 於：事務局 神
崎会長、尾形専務理事、西内常
務理事、小野寺事務局員

(19)「山の日」制定協議会

9月28日(水) 於：日本山岳ガ
イド協会 尾形専務理事

(20)スポーツ仲裁・調停等に関す る説明会・第8回スポーツ仲裁 シンポジウム 9月28日(水)

於：六本木アカデミーヒルズ
49 中川事務局員

(21)第66回山口国体総開会式

10月1日(土) 於：山口県・維
新百年記念公園陸上競技場 神
崎会長

(22)第66回山口国体・山岳競技

10月1日(土)～4日(火) 於：山
口県セミナーパーク 神崎會
長、内藤副会長、高山、北山、
寺内常務理事

(23)『登山研修』編集委員会 10 月3日(月) 於：国立競技場 尾 形専務理事

(24)オールスポーツマンゴルフ大 会キャプテン会議 10月5日 (水) 於：岸記念体育会館 尾形 専務理事

(25)U I A A 総会 10月5日(水)～ 8日(土) 於：ネパール・カトマ ンズ 田中、国澤顧問、神崎會 長、小野寺事務局員

(26)U A A A 総会 10月9日(日) 於：ネパール・カトマンズ 田 中、国澤顧問、神崎会長、小野 寺事務局員

(27)長谷川恒男20年祭と石碑除幕 式 10月10日(祝) 於：長尾平 (武蔵御岳神社) 石碑前 永井 常務理事

3.議事

(1)平成23年度9月常務理事会議 事録の承認について (承認)

(2)平成23年度臨時理事会議事録 の承認について (承認)

(3)平成23年度臨時理事会 (11 月)の議案について (承認)

(4)平成24年度予算編成方針及び 事業活動原案について (11月 常務理事会に再提案することで 承認)

(5)平成23年度補正予算について (2月常務理事会に提案する事 で承認)

(6)第50回全日本登山体育大会で の特別表彰について (福岡県山 岳連盟の中島信行名誉会長の特 別表彰を承認)

(7)平成23年度ヤマハ発動機ス

寄贈図書

●雑誌●

東京新聞社『岳人』11月号
山と溪谷社『山と溪谷』

11月号 No.919

●会報●

中国登山協会
日本体育協会

大阪府立体育館
全日本ボーリング協会
埼玉県山岳連盟
日本ゲートボール協会
大阪府山岳連盟
COREAN ALPINE CLUB
福岡コンベンションセンター
富山コンベンションビューロー
スクールパートナーズ高校生新
聞事業部
もんたにゅ会

信州大学山岳科学総合研究所
国立公園協会
群馬県山岳連盟
パナソニック山岳会
日本勤労者山岳連盟
(株)国土緑化推進機構
日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト
国立科学スポーツセンター
日本山岳会
東京野歩路会
日本フリークライミング協会

日本山岳写真協会
横浜山岳会
FEDME
福岡山の会
愛知県山岳連盟
茨城県山岳連盟
中華民国山岳協会
兵庫県山岳連盟

- スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞の候補者推薦について(事務局に付託することで承認)
- (8)新公益法人の会長・副会長・監事選考委員会について(提案通り承認)
- (9)参与候補者の推薦について(大分県山岳連盟前副会長の衛本秀允氏を承認)
- (10)茨城岳連からの競技委員会の運営についての要望について(競技委員会で対応を協議することで承認)
- (11)報告事項
- ア 会計月次報告
- イ 日中韓国際交流事業について
- ウ 平成23年度専門委員会常任委員について
- エ 岳都・松本「山岳フォーラム」について
- オ 2011毎日スポーツ人賞候補者の推薦について
- カ B M C International Meet 2012の派遣について
- キ 第54回オールスポーツマンゴルフ大会の件について
- ク U I A A, U A A A総会報告
- ケ 第2回日本山岳グランプリ候補者推薦について
- コ 第66回山口国体の報告

4. 役員等の派遣について

- (1)登攀技術研修会 10月15日(土)～16日(日) 於:宮城県・第2総合運動場 永井専務理事
- (2)Dr.ガネッシュY.タマン駐日ネパール大使送別会・在ネ新旧日本大使歓迎送迎会 10月18日(火) 於:東京ジョンプル(朝日生命ビル28F) 神崎会長
- (3)消防防災ヘリコプターによる山岳救助のあり方に関する検討会(第4回) 10月19日(水) 於:経済産業省 尾形専務理事
- (4)国立スポーツ科学センター創立10周年記念式典・懇親の夕べ 10月20日(木) 於:国立スポーツ科学センター 神崎会長
- (5)中高年安全登山指導者講習会(西部地区) 10月21日(金)～23日(日) 於:兵庫・六甲山系

- 國松副会長、西内専務理事
- (6)公益法人協会相談会 10月26日(木) 於:高輪研修センター 尾形専務理事、小野寺事務局員
- (7)第50回全日本登山体育大会 10月28日(金)～30日(日) 於:福岡・英彦山周辺 神崎会長、内藤、國松副会長、尾形専務理事、仙石専務理事
- (8)平成23年度全国参与会 10月28日(金) 於:北九州市・国際会議場 神崎会長、内藤、國松副会長、尾形専務理事、仙石専務理事
- (9)新公益法人移行の実務に関するフォーラム 11月1日(火) 於:あずさセンタービル 尾形専務理事、小野寺事務局員
- (10)第2回日本山岳遺産サミット 11月3日(木) 於:時事通信ホール 本木顧問、西内、仙石専務理事
- (11)岩手県山岳協会創立70周年祝賀会11月5日(土) 於:岩手・サンセール盛岡 内藤副会長
- (12)日本山岳会東海支部設立50周年記念式典 11月5日(土) 於:今池ガスビル 神崎会長
- (13)日本アルパインガイド協会創立40周年記念祝賀会 11月9日(水) 於:ハイアットリージェンシー東京 神崎会長
- (14)長野県山岳協会創立50周年記念祝賀会 11月12日(土) 於:長野市・ホテル国際21 神崎会長、内藤、松元副会長
- (15)I F S Cミーティング 11月19日(土) 於:ドイツ・ミュンヘン 神崎会長、小日向常任委員

5. 後援、協賛等の依頼について

- ア 「チャレンジウォーク!京都一周トレイル」に対する後援名義について(承認)
- イ J F A 2011日本選手権「マムートカップ」第3回視覚障害者クライミング日本選手権の後援名義について(承認)
- ウ 第19回日本山岳耐久レース～長谷川恒男C U Pの後援名義

について(承認)

エ 第2回日本山岳遺産サミットの後援名義について(承認)

6. 報告

- (1)自然保護指導員の承認:なし
- (2)指導員の認定承認
- ①上級指導員(アルパイン) 鳥取:安井博志、木元康晴、山田佳範、河合登、以上4名を承認
- ②指導員:なし
- ③S C主任検定員:なし

7. 通知、依頼、連絡、案内等(別紙の通り)

8. 連絡事項

- ①平成23年11月常務理事会 11月2日(木)17:30～(岸記念体育会館103号室)
- ②平成23年度臨時理事会 11月13日(日)10:30～(岸記念体育会館102～103号室)

編集後記

先週末、丹沢・大山にボランティアで登って来た。大山寺階段の紅葉はまだ青く遅れているようだ。頂上は相変わらずの人出でにぎやかであった。以前より若返った気がする。ウエアもカラフルだ。若年者の登山ブームであろうか? 日山協が新公益法人へ移行し、これらを取り込んで楽しい登山の実践と、遭難事故を未然に防止出来れば山岳会も再び活性化するのではないかと期待したい。
(広報担当 水島彰治)

登山月報 第512号

定価 100円(送料別)

予約年間 1,200円送料共

昭和45年12月12日

第三種郵便物認可

(毎月一回15日発行)

発行日 平成23年11月15日

発行者 東京都渋谷区神南1の1の1

岸記念体育会館内

社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396

F A X 03-3481-2395